

ヤ イ ロ チ ョ ウ

丹 下 一 彦[※]

赤, 黄, 茶, 黄褐, 緑, 青, 白, 黒色の鮮やかな色彩を持つ美しい鳥である。鳴き声は笛を吹くような澄みきった美声で, “シロペン, クロペン”と聞くことができる。しかし, 林内に潜むことが多く, 姿を見ることは難しい。

巣は昼でも薄暗い林の崖地に苔を主材として作られ, これを枯れ枝などでカモフラージュしている。繁殖のためには, 広大な“なわばり”が必要であり, 一つの谷に一つがいしか生息できないとも言われている。餌は主に昆虫類やミミズで, 繁殖期には雛のために口いっぱいミミズをくわえた親鳥の姿が, 写真等でよく紹介される。

ヤイロチョウの仲間は熱帯ジャングルに生息するものが多い。日本にくるヤイロチョウは比較的北方系の種類で, 東南アジアに生息し, 台湾や日本でも繁殖している。日本における繁殖記録は, 九州・四国が多く, 中国地方でも記録があり, この鳥の北限にあたる。九州では比較的記録が多く, 雲仙や霧島では姿を見るのも比較的容易であると聞いている。

四国では, 高知県が県鳥に指定し保護しているが, 高知県下でも現在は梶原・篠山山系などでわずかに生息記録がある程度になっている。

一方, 愛媛県下では, 石鎚山系や南予地方に以前は生息していたと言われているが, 自然林の伐採と植林のため, ヤイロチョウの生息できるような深い林がなくなり, ここ数年は生息の記録さえない状態であった。

ところが, 昨年(1986年)9月15日に, 宇和島市鬼ヶ城山系で, 中平 守氏によって幼鳥2羽(巣立ち以前のもの)が保護された。残念ながら1羽は直後に死んだが, もう1羽は順調に育ち, 11月下旬には親と変わらないく

らしいの鮮やかな羽根に生え変わっていた。

しかし, 年末に残念ながらネコに捕られてしまったらしい。幼鳥は保護された時点で, まだ全身ねずみ色の産毛の状態であった。このことから, 産卵の時期を逆算すると, 8月中旬ということになる。普通, ヤイロチョウの産卵時期は5~7月ごろと言われることから, 多分何等かの原因で繁殖に失敗し, 産卵し直したものと思われる。自然の状態で無事巣立ちできなかったのは残念であるが, 県下での繁殖を記録する貴重なデータになった。愛媛県の山は石鎚山系と赤石山系の一部を除き, 植林のため自然林が非常に少なくなっている。その中で, 南予で繁殖を記録できたことは, 県下にも繁殖可能な場所が残されていることと, 南予には未知の自然が残されていることを証明している。



保護されたヤイロチョウ
(データ: 1986. 11. 17 磯崎 進氏撮影)